opusdei.org

## 35. 最後の晩餐で何 があったか?

晩餐の中で、最も驚くべきことはエウカリスチア(聖体)の秘跡が制定されたことです。

2016/09/28

イエスの受難と死に先立つ時間は、 イエスと共に過ごした人々の記憶に 非常に強く刻み込まれました。従っ て、新約聖書では最後の晩餐におけ るイエスの言動が事細かに記述され ています。ヨアキム・イエレミア(プ ロテスタントの聖書学者)によると、この記述はイエスの生涯に関するエピソードの中で最良のかたちで立証されているもののひとつです。その場面に居るのはイエスと12人の弟子たちだけで(マタイ26,20;マルコ14,17と20;ルカ22,14)、母であるマリアも聖なる婦人たちも同席していませんでした。

聖ヨハネによると、最初にイエスは 意味深長なジェスチャーで仕えると いう謙虚の模範を示すために弟子た ちの足を洗いました(ヨハネ 13,1-20)。それに続いてこの集りの 劇的な出来事が起こります。弟子た ちの一人はイエスを裏切るであたう とイエスが告げると、聞いていた とイエスが告げると、聞いていた とイエスが告げると、聞いていた とイエスが告げると、間いていた とイエスは細やかな せます。そこでイエスは細やかな仕 草で暗にユダの裏切りを示しました (マタイ26,20-25;マルコ14,17-21; ルカ22,21-23;ヨハネ13,21-22)。 晩餐の中で、最も驚くべきことはエ ウカリスチア(聖体)の秘跡が制定 されたことです。その時に起こった ことは四つの物語として書き残され ています。その内の三つは共観福音 書(マタイ26,26-29;マルコ14,22-25; ルカ22.14-20)とパウロ(1コリント 11, 23-26)のものです。いずれもよ く似ています。四つ共に簡潔な記述 ですが、ミサ聖祭を執り行い、新た な儀式を定める、イエスの行為と言 葉を思い起こしています。「イエスは パンを取り、感謝の祈りを唱えて、 それを裂き、使徒たちに与えて言わ れた。〈これは、あなたがたのため に渡される私の体である。私の記念 としてこのように行いなさい〉|(ル 力22,19以下)。

この言葉はイエスが弟子たちと共に した晩餐が、いつもの晩餐と違い、 根本的に新しい出来事であったこと を示しています。イエスは食卓を囲 んでいた人たちにパンではなく、パ ンの外観のもとに全く異なるものを与えました。「これは、私の体である」。そして、その場にいた使徒たちに、自ら行ったことを彼らが行うための力を与えました。「これを私の記念として行いなさい」(ルカ22.20以下)。

晩餐の終わりにはもう一つ特別なことが起こります。「食事を終えてから、杯についても同じように言われました、〈この杯はあなたがたのために流される、私の血による新しい契約である〉」。

使徒たちは、その前にパンの外観のもとにイエスの体を受けたので、今度は御血の杯を飲むよう与えられていると理解しました。こうしてキリスト教の伝統は、イエスの御体と御血が別々に与えられたという記憶のうちに、やがて十字架上で完成されるいけにえの効果的なしるしを見たのでした。

最後の晩餐の間、イエスは愛情を もって語り、その言葉は使徒たちの 心に深く根を下ろしました。聖ヨハ ネによる福音には、この最後の話し の記憶が書き残されてあります。そ のとき、新しい掟が与えられ、それ を実行することがキリスト教と他の 宗教との違いを示す特徴となること でしょう。「私はあなたがたに新し い掟を与える。互いに愛し合いなさ い。私があなたがたを愛したよう に、あなたがたも互いに愛し合いな さい。互いに愛し合うならば、それ によってあなたがたが私の弟子であ ることを、皆がしるようになる| (ヨハネ13,34-35)。

参考書: JOACHIM JEREMIAS, La última cena: palabras de Jesús (Cristiandad, Madrid, 22003); FRANCISCO VARO, Rabí Jesús de Nazaret (B.A.C., Madrid, 2005) 179-185

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-35/ (2025/11/21)